

令和7年度第3回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会議名 令和7年度第3回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和8年3月25日（水） 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所東大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 鈴木道明委員、平野和彦委員、菅原千夏委員、小岩孝朗委員、
大石敦子委員、小島正明委員、佐藤寿幸委員、小野寺美枝子委員、
三浦尚博委員、千葉喜代一委員、村上とも子委員、吉田美和子委員、
金森勝利委員、小山亜希子委員、白石理恵委員

※欠席者 熊谷浩二委員、館澤敏子委員、小野寺憲之委員、青柳さつき委員、
熊谷繁弘委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、小野寺愛人まちづくり推進部長、藤倉忠光一関図書館長、
氏家克典教育委員会事務局副参事兼文化財課長、
佐々木修路教育委員会事務局副参事兼一関市博物館次長、
平石剛まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長・社会教育主事、
小野寺和宏いきがづくり課長、
佐藤康隆いきがづくり課市民センター係長・社会教育主事、
阿部彰いきがづくり課主査、八重樫理央いきがづくり課主任主事
- 5 説明内容
 - (1) 一関市教育振興基本計画について
 - (2) 一関市立図書館振興計画について
 - (3) 一関市文化財の調査及び保存・活用に関する基本計画について
 - (4) 令和8年度一関市教育委員会社会教育行政の方針（案）について
 - (5) 令和8年度一関市教育委員会社会教育行政等事業計画（案）について
 - (6) 令和8年度社会教育関係団体への補助金交付について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 教育長挨拶

本日は年度末のお忙しい中、また日程変更があったにもかかわらず、第3回一関市社会教育委員会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

3月に入り、市内の小学校・中学校の卒業式に出席してまいりました。卒業生は各学校長から卒業証書を受け取り、卒業の喜びと、学び舎や友人との別れの思いが入り混じ

る中での式となりましたが、厳粛な雰囲気の中、子どもたちは大変立派な姿を見せてくれました。退場の際には、保護者の皆さんが成長したお子さんの姿に胸を熱くされ、涙を流されている様子も多く見られました。学校の先生方、そして保護者の皆様が、一関の将来を担う子どもたちを育ててくださっていることに、改めて深い感謝の思いを抱いたところです。卒業式では、小学校・中学校ともに卒業生が「答辞」や「呼びかけ」の形で言葉を述べる場面があります。その中で必ず触れられるのが、学校の先生方への感謝、家族への感謝、そして地域の皆様への感謝です。地域の皆様からの見守りや、学びを支えていただいたことへの感謝が述べられ、子どもたちの率直な思いが伝わってまいりました。現在、「学校と地域の協働」がキーワードとなっていますが、地域の皆様に支えられて子どもたちが育っているという、まさに社会教育の意義を卒業式の間でも強く感じたところです。

さて、今年度は市の総合計画の策定を受け、ここにいらっしゃる皆様や市民の皆様からのご協力もいただきながら、今後10年間の「一関市教育振興基本計画」、さらに「一関市立図書館振興計画」や「一関市文化財の調査及び保存・活用に関する基本計画」を作成しております。

教育振興基本計画の基本目標は、「郷土を愛し 自ら学び 未来を拓く 一関のひとづくり」といたしました。ここで私が最も強調したいのは、学校教育・社会教育を問わず、最も重要なのは、人づくりであるという点です。現代社会は、デジタル化の進展、人口減少、社会情勢の不安定化など、急速な変化の中にあります。予測困難な状況にあっても、それを乗り越え、一関を発展させていくためには、子どもたちだけでなく市民一人一人が、自らの未来と地域の未来を見据え、郷土の良さを理解し、夢と希望を持って社会に貢献していくことが求められます。そのような人材を育て、また共に創り上げていくことこそが教育の役割であると考えております。

社会教育については、「ともに学び、まちと地域をつくるひとづくり」を基本方向として掲げております。

先日、3月14日には、室根市民センターが今年度「全国優良公民館文部科学大臣表彰」という大変名誉ある表彰を受け、祝賀会が開催されました。私も出席いたしましたが、同センターが地域の若者をどのように地域づくりへ参画させるか工夫を重ねてきた点が高く評価されたとのことで、大変嬉しく感じました。地域に根ざした社会教育の取組が広がっていくことを期待しております。

本日の会議では、先ほど申し上げました、一関市教育振興基本計画、一関市立図書館振興計画、一関市文化財の調査及び保存・活用に関する基本計画についての説明に加え、令和8年度の一関市教育委員会社会教育行政の方針・事業計画等についてご協議いただ

く予定です。

また、本日は皆様の任期最後の会議となります。委員の皆様には、社会教育について日頃感じておられること、この2年間を通してのご意見など、忌憚のないご提言をいただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

9 説明

(1) 一関市教育振興基本計画について

資料1に基づき、事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

(2) 一関市立図書館振興計画について

資料2に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 22 ページの「市民アンケートからみた課題」について気になった点がある。

課題の中にある「調べものの相談サービスの充実」とは具体的に何を指しているのか、ご説明いただきたい。また、「開館時間の延長」についても、多くの意見があったため課題に挙がっているのだろうと推察するが、この点についての考え方も伺いたい。

事務局 まず、22 ページの課題欄の下から2行目にある「調べものの相談サービスの充実」については、図書館で行っているレファレンスサービスを指している。来館者から「こういうことを調べたい」という相談を受け、資料の案内や調査の手助けを行うものである。

例えば、自分の祖先について調べたい、過去の新聞記事を確認したい、山火事など特定の出来事の経過を調べたいといった相談が最近は多く寄せられている。こうしたニーズに対応するため、専門の図書館司書を配置し、相談対応に十分な時間を確保できる体制づくりを進めているところである。

次に「開館時間の延長」については、令和5年度に開閉館時間に関する利用者アンケートを実施したところ、夏季は朝の開館を30分早めてほしい、夜の閉館時間は現状のママがよい、といった御意見が寄せられた。

これらを踏まえ、利用者の多い時間帯に合わせて開閉館時間を調整することを検討している。ただし、総開館時間数を変えず、朝の利用が多ければ開館を早める、夜の利用が多ければ閉館を遅らせるといった形で、より効果的に調整する方向で検討を進めている。

委 員 概要版の「4 学びの成果を挑戦につなげる図書館」という点に関連して、サン・アビリティーズ一関の文化活動の一環として写真教室がある。私はその講師を担当しており、これまで図書館を会場として写真展を開催させていただいた。展示の機会をいただくことで、受講者にとって大きな励みとなっている。

今後も引き続き、図書館のご協力をお願いしたいと考えている。この点についての考え方もお伺いしたいと思う。

事務局 資料２－２の３９ページの「(1)市民協働による読書活動の推進」の部分にある「だれもが参加し輝くことができる図書館」という点が非常に重要だと考えている。日ごろ図書館を利用されている方だけでなく、何らかの理由で図書館を利用しにくい方、そして元気な方も事情を抱えている方も、全ての人が参加し、輝ける場となることを目指すべきだと思う。その観点からも、展示などの取組をさらに充実させていきたいと考えている。

- (3) 一関市文化財の調査及び保存・活用に関する基本計画について
資料３に基づき、事務局から説明を行った。質疑応答等なし。
- (4) 令和８年度一関市教育委員会社会教育行政の方針（案）について
資料４に基づき、事務局から説明を行った。質疑応答等なし。
- (5) 令和８年度一関市教育委員会社会教育行政等事業計画（案）について
資料５に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料５の４ページの「(2)地域全体で子どもを育む環境づくり」の「②教育振興運動の推進」について、教育振興運動を推進する主体としては、子ども・家庭・学校・地域・行政の５者であると理解している。その上で、資料１－２の資料集の４６ページの解説欄には「学校・家庭・地域・行政」の４者の記載になっており、「子ども」が抜けているように見受けられた。すでに策定済みの資料ではあるが、どこかの機会で整理ができるのであれば、整えておいた方がよいのではないかと思う。

事務局 ご指摘いただいた点について、教育振興運動は５者連携で進めるものであり、地域で子どもを育てるという観点から、子ども自身が主体となる部分がある。その上で、その他の４者「家庭・学校・地域・行政」が協力するという意味合いで、現在の表現にしている。ただし、現状の記述では分かりづらい面があるとのことご意見も踏まえ、必要であれば表現の整理について検討したい。

委員 まず、資料４の４ページの「(2)青年リーダーの育成に向けた取組」について伺いたい。ここでは、青年リーダーの育成のための多様な学習機会や学習情報の提供を行うと記載されているが、現在どのような具体的な取組や考えがあるのか、お聞きしたい。

次に、資料５の８ページの「③博物館等の連携」について、各博物館等への資料の貸出しの要望があれば貸し出すということだと思うが、市内だけでなく、県内・県外の博物館に所蔵されている資料を借りたい場合、どのような対応が

可能なのか、併せてお聞かせいただきたい。

事務局 まず、青年リーダー育成に関する取組についてお答えする。1点目として、岩手県が実施している「いわて希望塾」へ中学生を派遣する事業がある。こうした取組を通じて、リーダー育成に努めていきたいと考えている。また、2点目として市民センター事業を活用し、青年教育事業のリーダー育成にも取り組んでいきたいと考えている。ただし現状では、市民センター事業における青年向けの取組が少ない状況にある。そのため、例えば室根市民センターの取組など、参考となる事例を市民センターへ情報提供し、各センターで青年向けの取組が進むよう働きかけていきたいと考えている。

事務局 次に、資料5の8ページの「各博物館等への資料の貸し出し」についてお答えする。まず、この事業は名称のとおり、他の博物館等へ資料を貸し出すことである。貸出しに当たっては所定の手続が必要であり、その手続を経た上で資料を提供する形になる。

一方で、当館が他館から資料を借りる場合、例えば展覧会などで外部の資料を活用したい場合には、個別に借用先の博物館へ連絡し、必要な事務手続を行ったうえで借用することになる。なお、資料の種類によっては、保存状態を維持するために展示可能な期間が制限されているものもある。そのため、資料の性質に応じて展示期間を調整しながら対応することになる。

委員 2点質問がある。

まず1点目、資料5の1ページの項目10「二十歳のつどい」について、来年1月の開催予定となっているが、例年会場として使用している一関ヒロセュードームが改修工事に入ると聞いている。来年度の開催場所はどこを予定しているのか伺う。

2点目は、資料5の4ページの項目42「放課後子ども教室」について、今年度、新たに1校1教室が増えるとのことだが、この実施に至る経緯について伺いたい。具体的には、学校側からの要望によるものなのか、市民センター側から働きかけて実施に至るのか、そのプロセスをお聞きしたい。

事務局 まず、二十歳のつどいの開催場所についてお答えする。今年11月から一関ヒロセュードームが天井改修工事に入るため、来年1月の開催時期には利用ができない。そのため、現在は一関文化センターでの開催を検討しているところである。ただし、一関文化センターは駐車場の課題があるため、その点も含めて検討を進めていきたいと考えている。

次に、放課後子ども教室について、今回新たに実施する舞川地区は、舞川市

民センターから放課後子ども教室を実施したいという申出があり、それを受けて実施することとなった。なお、これまでの事例では、市民センター側からの働きかけによるものもあれば、学校側からの要望によって実施に至ったケースもある。実施のきっかけは地域ごとに異なり、それぞれの状況によるのが現状である。

委員 放課後子ども教室について、私自身この会議に参加するようになって初めて知り、とても良い活動だと感じている。しかし、PTAの立場で見ても、放課後子ども教室が実施されていない地域の保護者にとっては、その存在すら知られていないという状況にある。実際、私の子どもも小学校を卒業するが、地域に放課後子ども教室があれば良かったのにと正直思っている。そのため、この事業の周知が十分に行われていないのではないかと感じている。より広く保護者に向けた周知の取組は行っていないのか。

事務局 放課後子ども教室の周知については、市民センターや学校を通じて周知を行っているところである。ただし、放課後子ども教室の実施には、ボランティアの確保など、地域の協力体制が不可欠である。そのため、地域として体制が整ったところが現在実施できている状況にある。今後は、より多くの地域で放課後子ども教室が実施できるよう、市としても支援を行いながら、地域への働きかけや情報提供を進めていきたいと考えている。

委員 資料5の2ページの「②学びの成果を生かす環境づくり」の項目23について伺う。実施概要に「市民センターまつりや文化祭などを開催し」と記載されているが、この「文化祭」とは、毎年11月頃に、なのはなプラザで開催されている文化祭を指しているという理解でよいのか確認したい。

事務局 ここで想定している「文化祭」は、市民センターが主催して実施する文化祭を指している。一方で、なのはなプラザで毎年11月頃に開催されている文化祭については、文化行政の所管が市長部局であり、文化振興の観点からいきがいづくり課が実施している事業になる。

委員 この文化祭について、市が主催している文化祭だが、その場合は担当課が本資料の担当課とは異なるということか。

事務局 この件については、改めて整理をすることとする。

(6) 令和8年度社会教育関係団体への補助金交付について

資料6に基づき、事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

事務局 先ほどの文化祭について補足する。なのはなプラザで実施している文化祭は、文化行政の一環として市長部局が実施している事業である。しかし、市民の学

習機会の充実という観点から見ると、生涯学習の領域にも関わる部分がある。そのため、文化行政としての取組と、生涯学習の視点を持つ取組が連携しながら進められるよう、今後も協力して取り組んでいきたいと考えている。

委員 今日の説明内容とは直接の関係はないのですが、質問させていただく。昨年度の最後の会議で「いちのせき名人・達人バンクについて」の提案があったかと思う。その後の状況や、現在どのように進んでいるのか教えていただければありがたい。

事務局 いちのせき名人・達人バンクの現状について説明する。現在の登録状況は、個人42名、団体8団体で、様々な分野の名人・達人の方々に登録いただいている。利用の流れとしては、講師を依頼したい方がいきがいきづくり課へ問い合わせを行い、いきがいきづくり課から連絡先をお伝えする仕組みになっている。これまでに32件の問い合わせがあり、その多くは学校からの依頼で、例えば「餅に関する授業を行いたい」といった内容のほか、市民センターの事業で講師として活用されている例もあり、幅広く利用されている。

委員 いちのせき名人・達人バンクについて、私自身あまり情報が届いていなかったため、周知が不十分ではないかと感じている。もしこの仕組みがもっと広く知られていれば、より多くの方が活用しやすくなるのではないかと思う。今日の説明の中ではいちのせき名人・達人バンクに触れられていなかったため、現在どうなっているのか気になり、お聞きした次第である。

事務局 いちのせき名人・達人バンクの周知についてですが、市のホームページや市の広報で周知を行っている。また、各小学校・中学校や市民センターにも個別周知を行っているところ。ただし、より多くの方に利用いただくためには、現状の周知ではまだ十分ではないと感じている。今後は、さらに周知の方法を工夫し、利用促進につなげていきたいと考えている。

10 その他

事務局 本日は任期最後の会議となるので、御所属の団体等の取組の紹介や、社会教育全般に関する御意見など、どのような内容でも結構ですので、委員の皆様全員からご発言をいただきたい。

委員 私は、山目市民センターで行われている放課後子ども教室に、月1回・木曜日の担当としてボランティア参加している。活動時間は午後3時から午後5時までで、子どもたちと一緒に体育館でバドミントンや卓球をしたり、子ども同士で自由に遊んだりする様子を見守っている。子どもたちは学校から帰ってくると、まず宿題に取り組み、終わった子から好きな遊びに移る。帰りまでの過

ごし方はそれぞれで、保護者が迎えに来て帰宅する。

また、放課後子ども教室のほかに、サン・アビリティーズ一関のカメラ教室で講師を務めているほか、狐禅寺市民センターの千歳大学でも写真講座の講師を担当している。

委員 スポーツ協会では、令和7年度の総会を昨年5月に開催し、これまでの「一関市体育協会」から「一関市スポーツ協会」へ名称を変更した。それに合わせてシンボルマークの公募を行い、152点の応募作品の中から1点を選定した。協会としては市から指定管理を受け、現在59の施設を管理している。ニュースポーツから競技スポーツまで幅広い分野で、市民の皆さまに施設を活用していただきながら、スポーツ振興に努めているところである。

委員 今年度、初めてPTA会長を務めることになり、このような会議に参加するのも初めての経験であった。一関市PTA連合会をはじめ、様々な会議に参加する機会があり、皆さんが日頃から多くの会議や活動に取り組んでいることを知り、大変勉強になった1年であった。本日は年度最後の会議ということで、皆さんのお話を伺うことができ、とても参考になった。ありがとうございました。

委員 地域の皆様に支えられながら学校運営を進めている。今後ともよろしくお願いしたい。

委員 2年間、社会教育委員としてお世話になった。学校行事と重なることも多く、なかなか出席できない場面もあったが、皆様から様々なお話を伺い、また資料を通して多くのことを学ばせていただいた。会議の開催にあたっては、事務局の皆様をはじめ、教育長様からも多くのご助言をいただき、本当に感謝している。ありがとうございました。

委員 教員を退職してから、市民センターの活動にも少しずつ関わるようになった。実際に参加してみて、幅広い年代の方々に向けて多様な取組が行われていることに改めて気づかされた。4月からは少し時間に余裕ができるため、これまで以上に活動に関わっていきたいと思っている。また、先ほど図書館長から社会教育委員の皆さんにも月1回程度の利用をという話があったので、私は月に2～3回ほど図書館に足を運んで活動したいと考えている。

委員 以前は現役でPTA活動にも関わっていたが、子どもたちが大きくなった今は、市民センターを通じて、様々な子ども向け行事に関わらせていただいた。小正月行事をはじめ、いろいろな取組に参加する中で、今回この社会教育委員を務める機会をいただき、皆さんの多様な活動や、行政側での様々な試行錯誤

を拝見し、大変勉強になった。ありがとうございました。

委員 花泉芸術文化協会から参った。芸術文化協会は、コーラス、舞踊、絵画など、さまざまな分野の団体が加盟している組織である。一関市内の各地域ごとに同様の協会があり、それぞれが文化祭実行委員会として地域の文化祭を開催している。地域の文化祭で選ばれた作品は、「明日を拓くいわい地方美術展」に出品される仕組みになっている。また、美術展だけでなく、民舞などの分野でも、各地域の他に磐井地方全体の会があり活動している。芸術文化協会の活動が、この社会教育委員会議とどのように関わっているのか、もう少し理解を深めたいと考えている。

事務局 先ほどの委員からのご質問とも重なる部分があるが、文化行政については市長部局の所管となっている。ただ、広い意味では生涯学習の分野に含まれるものでもあるので、今後も連携しながら取り組んでいきたいと考えている。

委員 私は花泉の涌津市民センターに勤務している。日々様々な活動に関わる中で、社会教育の重要性を強く感じている。子どもたちと一緒に走り回ったり、成人学級や高齢者学級を運営したりと、多様な年代の方々と関わる機会があるが、今の世の中では「人づくり」がとても難しくなっていると実感している。特に、来てほしい年代の方々に集まっていただくことがなかなか難しい状況である。

そのため、現在は子どもたちを中心に、地域の活動に参加してもらえるよう工夫しながら取り組んでいるところ。本日いただいた資料も大変参考になる内容だったので、今後の活動に活用していきたいと思う。ありがとうございました。

委員 私は現在、千厩の図書館友の会の一員として、古本市をはじめとした様々な行事のスタッフとして活動し、図書館の支援を行っている。古本市は年2回開催しており、毎回多くの収益が得られ、その収益は児童図書の購入に充てられている。

また、清明支援学校中学部のお茶のボランティアとして学校に伺う機会もあり、子どもたちの元気や純粋な心に触れ、こちらが力をもらっているような状況である。

さらに、市民センターの運営委員も務めることになり、年齢的にも資料を読むのが大変になってきてはいるが、引き続き地域の活動に関わらせていただいている。趣味ではパッチワークの代表をしており、作品を図書館や文化祭、市民センターまつりなどに展覧している。ただ、千厩地区では文化祭と市民センターまつりの開催時期が近いため、1年がかりで作る作品を複数準備するのは

大変で、文化祭的な行事を一本化してはどうかという意見を毎年出しているものの、なかなか実現には至っていない。いずれにしても、作品づくりを通じて社会教育に関わらせていただき、充実した時間を過ごしている。本当にありがとうございました。

委員 私は東山町長坂の「たいしたもんだ長坂みらい塾」に関わっている。ここでは2月に冬季オリンピックに出場した岩渕麗楽選手の講演会を市民センターと協力して開催している。麗楽さんが初めてオリンピックに出場した頃から、地域で「竹ばすり世界大会」を開催していたが、近年は雪が少なくなったため、昨年祭時で開催している世代間交流スキーと合わせて、大会ではなく竹ばすり体験会という形で実施している。今年も10数名の子どもたちが参加し、竹ばすりを楽しんできた。竹ばすりは地域協働体の職員が手作りしたもので、節の短い竹を使ったため苦労もあったが、スキー場に来ていた地域の方々から「懐かしい」「滑ってみたい」「子どもにもやらせたい」と声をかけていただき、喜んでもらったことが印象的であった。手作りした竹ばすりは1年しか使えないため、希望する子どもたちに分けてあげたところ、とても喜んでくれた。現在、麗楽さんの活躍もあって地域が盛り上がっているが、一方で地域協働体の活動を続けていく難しさも感じている。特に、若い世代がなかなか仲間に入ってくることが大きな課題であり、今後の悩みどころとなっている。

委員 私は室根市民センターに勤務している。昨年度に5地区で出張懇談会を実施し、子育て世代のお父さん・お母さんと意見交換を行った。そこで出た主な声は二つで、「子どもが遊べる場所がないこと」「子ども会の活動をやりたいが、何をしてもいいかわからない」というものであった。そこで、市民センターとして子ども会事業の支援を行ったところ、お父さん・お母さん、そして子どもたちが同じ気持ちで楽しんで帰っていく姿が印象的であった。また、「遊び場がない」という声に応えるため、来年度は市民センターが地域に出向いて遊び場を提供する取組を進めているところ。

最後に、室根地域の行事を少し紹介させていただく。まず、4月12日には室根山の山開きがあるので、ぜひお越しください。また、18日には朝に熱気球係留体験搭乗会を開催し、夜には青年が中心となって体育館周辺の桜のライトアップを行う。毎年多くの方が訪れる人気の行事である。5月には室根山つつじまつりも予定されており、青年を中心に頂上での出店なども計画されているようである。

ぜひ室根地域にも足を運んでいただければと思う。

委員 約2年間、皆さまには大変お世話になった。私は川崎まちづくり協議会の委員を務めている。社会教育委員のお話をいただいた当時は、まだトマト農家として働いていたが、その後、川崎市民センターの職員となり、まちづくり協議会の事務局も短期間担当した。現在は、いちのせき市民活動センターのスタッフとして千厩サテライトに勤務している。協働体の事務局を経験し、今も委員として関わっていることから、社会教育委員会に出てくる話題は、自分自身のこととして受け止めながら参加してきた。

また、一関市総合計画審議会の委員も務めており、ちょうど事業計画の見直し時期と重なったため、膨大な情報量に頭がいっぱいになることもあった。個人的には、ダイバーシティの考え方をまちづくりにどう落とし込むかという点で、十分に整理しきれなかったことが心残りである。

川崎まちづくり協議会の活動としては、地域の広報づくりや、地域の声を集める「まちづくりポスト」の設置・運営などを行っている。協働のまちづくりが始まって長くなるが、協働体が目指す地域の姿については、これから少し視点を変えて見直していく必要があるのではないかと感じている。

委員 一関市のスポーツ推進委員をしております。テーマに「ともに学び」とあるので、子どもたちと地域の方々、また地域の方と障がいのある方、さらに世代を超えた交流など、様々な場面でニュースポーツやレクリエーションを活用していただければと思っている。指導の依頼がありましたら、ぜひスポーツ推進委員をご活用してほしい。

私自身は、上は27歳の娘から、下は今年小学校6年生を卒業した子までおまして、約20年間PTA活動に関わってきた。時代とともに本当にいろいろなことが変わってきたと感じている。特に今気になっているのは、中学校の部活動の地域クラブへの移行である。課題も多い中で、その関連の会議にも参加していますが、少しでもスムーズに進められるよう力になればと思っている。ありがとうございました。

委員 この会議で皆さんのお話を伺うことが、毎年とても楽しみであった。ここで得た学びを地域に持ち帰り、実践できたことも多く、大変ありがたく思っている。本日は、その中から一つ紹介したい取組がある。奥玉地区では、これまでの体育協会を解散し、地区の大きな組織である振興協議会の中に「健康スポーツ部会」として再編した。振興協議会には4つの専門部があり、その1つとして新たに位置づけた形である。この再編の背景には、従来の体育協会の理事を若い世代が担っており、地域への呼びかけや選手集めなど、多くの負担が若い

人たちに集中していたという課題があった。「若い人に任せきりにするのではなく、地域全体で支えながら育てていきたい」という思いから、自治会長や区長をはじめ、地域のリーダーが後ろ盾となり、みんなで専門部会を応援する体制をつくった。若い人に「好きなようにやっていい」と任せるだけでは、うまくいかなかったときに挫折感だけが残し、次の活動につながらないこともある。だからこそ、地域の幅広い年代が一つになって支える組織づくりが必要だと考え、この形にたどり着いた。現在は女性の部長が健康スポーツ部会を率いており、新たな応援団が広がりつつある。順調にスタートしており、ほっとしているところである。同じような課題を抱えている地域があれば、こうした方法も検討する価値があるのではないかと思い、紹介させていただいた。本当にありがとうございました。

11 担当 まちづくり推進部いきがづくり課